研究レポート2

# 進路決定過程と進学要求からみる専門学校進学者の特徴

1979年生まれ。福岡大学人文学部准教授。専攻領域は青年期教育論で、とくに専門学校における教育とそこでの青年の学びに着目した研究を行っている。主な著書として『専門学校の教育とキャリア形成』、『大学生になるってどういうこと？』、『ノンエリート青年の社会空間』、『フツーを生き抜く進路術』等がある。

福岡大学
植上 一希

## はじめに

今回の調査から、専門学校進学者の進路決定過程と進学要求についての概要がわかる。この2点に注目して、専門学校進学者の特徴について、学科・コースごとの特性（多様性）もふまえながらみていこう。

## 1 具体的な職種・業界決定を基軸とした進路決定

### ○進路決定時における職業イメージや学習イメージ

それぞれの学科・コースが具体的な職種・業界に対応したカリキュラムをたてているのが、専門学校教育の特徴の一つであるが、そうした特徴に対応する形で、専門学校進学者も専門学校への進学を決定していることが、今回の調査からは浮びあがる。

まず 表2－1 をみてみよう。これは専門学校進学者が進路決定時に、職業イメージや学習イメージをどの程度もっていたのかをみたものである。ここからは専門学校進学者の約4人に3人が、一定の職業イメージ・学習イメージを有して専門学校進学を決定していることが確認できる。大学進学者についての同様な調査がないため安易な比較はできないが、大学進学においてはここまで高い数字はでないと思われる。専門学校進路決定において、その多くが具体的な職業イメージやそれに関連する学習イメージを有しているといえよう。

### ○進路選択の多様性

大学進学や就職などといった数ある進路のなかで、専門学校進学者が専門学校を選んだ過程についても、今回の調査からはいくつかの点を確認することができる。

まずは、全体状況を確認するために 表2－2 を見てみよう。これは、専門学校への進学を考える際に同時に検討した進路先をみたものである。大学進学が約30％、短大進学が15％と、他教育機関への進学を検討したうえで専門学校進学を決めている者が一定数いると同時に、就職や転職を検討したうえで専門学校進学を決めている者が約25％いること、そして「同時に検討したものはない」という形で専門学校進学一択の進路決定した者が約36％いることがわかる。これも大学進学者に対する同様な調査がないため安易な比較はできないが、大学進学においてはおそらく「就職・転職」や「専門学校進学」などの数字はより低く出て「大学進学一択」の割合が高くなると思われる。そう考えるならば、表2－2 は専門学校進学者の進路決定過程における、選択肢の多様性を示しているといえるだろう。

**表2－1 専門学校への進学を決めたとき（入学時）の状況**

(%)

| | |
|---|---|
| 1．つきたい職業に対するイメージや理想像をもっていた | 73.1 |
| 2．学校で「これを身につけたい」と思う知識やスキルがあった | 72.3 |
| 3．将来や進路を考える上でロールモデル（手本となる人）が身近にいた | 35.1 |

注：数値は「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計。

**表2－2 専門学校への進学を考える際に同時に検討した進路先**

(%)

| | |
|---|---|
| 1．各種学校（予備校） | 6.1 |
| 2．短期大学 | 15.0 |
| 3．大学（6年制含む） | 29.9 |
| 4．大学院 | 0.5 |
| 5．留学 | 1.0 |
| 6．就職、転職 | 24.6 |
| 7．その他 | 1.2 |
| 8．同時に検討したものはない | 35.9 |

### ○学科・コースによる特徴

学科・コースの性質によって、進路決定過程の形が異なっていることも興味深い。今回の調査からは、当該学科・コースが、他教育機関と競合するかどうかによって進路決定過程が大きく異なることが浮びあがってきた。

#### ①他教育機関と競合しない学科・コースでは専門学校進学一択・早期検討者が多い

大学や短大ではほとんど対象としない職種等に対応した学科・コースが、専門学校には多数存在する。いわば専門学校特有の学科・コース群であり、「美容・理容系」や「エステ・ネイル・メイク系」、「音楽・アニメ・芸術系」、「ペット系」などがその代表的なものであろう。

こうした学科・コースでは、他に競合する教育機関がないため、表2－2における「同時に検討したものはない」（＝専門学校進学一択）の割合を学科・コース別にみてみると（図表省略）、いずれも4割を超えており、最も高い「エステ・ネイル・メイク系」は45.5％となっている。

また、これらの進学者は早い時期から専門学校進学を検討しているのも特徴的である。表2－3は、専門学校への進学を考え始めた時期についてみたものである。他教育機関と競合しない学科・コース群はいずれも、全体平均よりも早い段階で専門学校進学を考え始めていることがわかる。

すなわち、専門学校特有の学科・コース群への進学者は、その職種や業界希望を軸に、早期段階から専門学校進学中心に、進路を選択する傾向にあることがわかる。

#### ②他教育機関と競合する学科・コース

他方、他教育機関と競合する学科・コース群では、それらの教育機関との同時検討が多く出ている表2－4。短期大学との同時検討が最も多いのは「保育・教育系」で48.2％、大学との同時検討が最も多いのは「看護系」で47.5％であった。こうした競合する学科・コース群の検討率の高さが全体の短大や大学への「同時検討」の数字の平均を大きく引き上げている。

この結果が示唆するのは、専門学校進学者における他教育機関との検討は、競合する学科・コースの有無にかかわらず、希望する職種や業界を軸になされている傾向が強いという点である。

### ○代替的進学の少なさ

最後に専門学校進学における代替的進学の状況について見ておきたい。代替的進学とは、他の進路の代替として、専門学校進学を選ぶという行動である。

従来、専門学校進学は大学進学等の代替的進学として見られがちであったが、表2－5の「全体」の結果からわかるのは、大学進学の代替的進学は8％程度、「就職できなかった」の代替的進学も3％程度にとどまるという点である。専門学校進学における代替的進学は両者を合わせても1割程度であり、決して多くないことが、今

**表2－3　専門学校への進学を考え始めた時期**

(%)

| | 全体 | 栄養・調理・製菓系 | 美容・理容系 | エステ・ネイル・メイク系 | 音楽・アニメ・芸術系 | ペット系 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 高校入学時 | 9.8 | 25.4 | 21.6 | 18.9 | 14.8 | 30.0 |
| 高校１年時 | 10.6 | 18.0 | 13.1 | 13.2 | 18.3 | 15.8 |
| 高校２年時 | 31.1 | 30.8 | 37.7 | 35.8 | 34.7 | 25.8 |
| 高校３年時 | 44.0 | 22.7 | 22.3 | 29.2 | 30.0 | 24.2 |
| その他 | 3.3 | 2.2 | 3.9 | 2.8 | 1.6 | 4.2 |

注：なお、他教育機関と競合の有無については、厳密な分類はしておらず、たとえば「栄養・調理・製菓系」の一部は短大等と競合するが、その点については今後の調査課題としたい。

**表2－4　専門学校への進学を考える際に同時に検討した進路先**

(%)

| | 全体 | 保育、教育系 | 看護系 |
|---|---|---|---|
| 1. 各種学校（予備校など） | 6.1 | 4.2 | 6.3 |
| 2. 短期大学 | 15.0 | 48.2 | 13.9 |
| 3. 大学 | 29.9 | 22.5 | 47.5 |
| 4. 大学院 | 0.5 | 0.4 | 0.2 |
| 5. 留学 | 1.0 | 1.1 | 1.4 |
| 6. 就職、転職 | 24.6 | 21.8 | 10.9 |
| 7. その他 | 1.2 | 1.6 | 1.3 |
| 8. 同時に検討したものはない | 35.9 | 20.7 | 32.2 |

注：回答は複数回答可

**表2－5　進学理由①（他の進路との関係など）**

(%)

| | 全体 | 看護系 | ビジネス、経営、事務、秘書系 |
|---|---|---|---|
| 1. 高卒で就職したくなかったから | 19.5 | 12.1 | 32.5 |
| 2. 大学に進学できなかったから | 8.1 | 19.7 | 7.4 |
| 3. 就職できなかったから | 2.8 | 0.4 | 3.3 |
| 4. 経済的な負担が少ないから | 6.4 | 19.7 | 7.1 |

注：回答は複数回答可

回の調査からまずわかる。

ただし、学科・コースによって差はある。大学進学との関係では、看護系は「大学に進学できなかったから」が19.7％を占めている。看護系においては、「経済的な負担が少ないから」専門学校を選んだ者が同様に19.7％いることを考えるならば、一定数の代替的進学があると考えられる。

また、「高卒で就職したくなかったから」では、「ビジネス・経営・事務・秘書系」が32.5％となっている。1980年代～90年代前半までは、これらの学科が属する商業実務分野は大学進学の代替的進学先としてみなされていたが、現在はその一部が高卒就職の代替として機能していると見て取ることもできるだろう。

## 2 職種や専門性に沿う形での明確な進学要求

1では、専門学校進学者の進路決定過程を検討してきた。学科・コースによって違いはあるものの、いずれにせよ専門学校進学者の多くが、具体的な職種・業界を決めながら専門学校進学を決めていることがわかる。進学時における職種イメージや学習イメージの高さも、こうした進路決定過程と深く関係するだろう。

2では、上記をふまえて、専門学校進学者がどのようなことを専門学校に求めて進学したのかについて見てみよう。この点を検討するにあたって、進学要求における以下のような側面に注意することが必要であると考える。

専門学校も含めて高等教育段階への進学要求は、進学をその後の職業世界への参入やキャリア形成等の手段としてとらえる手段的側面と、進学先における教育・学習や学生生活等を重視する、言い換えるならば、進学それ自体を目的とする目的的側面に、まず大きく分けることができる。

そしてこの二つの側面はさらに、形式と内容という二つの観点から分けてとらえることができる。手段的側面の形式面とは、職業世界への参入の形式的条件となる学歴や職業資格などの取得を要求するものであり、手段的側面の内容面とは、職業世界に参入の内容的条件となる知識や技術、職業観といった要素の取得を要求するものである。

他方、目的的側面における内容面とは、高等教育機関における教育内容や学習、そして学生生活そのものを要求するものであり、専門学校では、「職業世界に関すること」や「好きなこと」を学びたいといった「就職するため」とは若干意味合いが異なる要求となる。なお、目的的側面の形式面は、たとえば、「就職するため」とは相対的に異なる有名大学のブランドを求めての進学などがあるだろう。ただし、専門学校進学ではこうしたことはあまり考えられないため、本論では、以上に挙げた、手段的側面（形式）、手段的側面（内容）、目的的側面をもとに、専門学校進学者の進学要求を検討していく。

### ○進学要求の全体的な特徴

表2－6 は専門学校進学者の進学要求をみたものである。

手段的側面については主に、「2．就職・転職につながる資格や免許を取得したかったから」、「6．専門学校卒の学歴がほしかったから」がその形式面について、「4．将来に役立つ知識やスキルを身につけたいから」がその内容面についての項目である。全体の結果を見れば明らかなように、まず、手段的側面の形式面においては、専門学校卒学歴を求める者は非常に少なく、それに対して職業資格等を求める者が6割近くを占めている。また、「将来に役立つ知識やスキル」を半数近くが求めている。

次に、目的的側面については、「1．専門的な内容を学びたかったから」、「5．人間関係を広げたいから」が項目となる。大学進学等では「人間関係を広げたいから」の数字は高く出そうであるが、わずか8％に過ぎない。

**表2－6 進学理由②（進学に求めること）**

(%)

| | 全体 | 音楽、アニメ、芸術系 | ペット系 | エステ、ネイル、メイク系 | 栄養、調理、製菓系 | ビジネス、経営、事務、秘書系 | 医療、リハビリ系（看護系除く） | 自動車、航空、整備系 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 専門的な内容を学びたかったから | 57.7 | 84.1 | 81.6 | 74.5 | 73.9 | 47.1 | 54.6 | 65.1 |
| 2. 就職・転職につながる資格や免許を取得したかったから | 58.9 | 30.0 | 60.0 | 60.0 | 61.7 | 73.1 | 72.8 | 72.5 |
| 3. 自分の適性や将来の方向性を見つけたいから | 31.8 | 51.3 | 32.0 | 32.7 | 35.6 | 32.6 | 26.5 | 34.9 |
| 4. 将来に役立つ知識やスキルを身につけたいから | 48.8 | 51.6 | 59.2 | 59.1 | 58.2 | 57.8 | 50.8 | 58.7 |
| 5. 人間関係を広げたいから | 8.2 | 8.1 | 4.0 | 2.7 | 10.4 | 9.3 | 6.2 | 6.4 |
| 6. 専門学校卒の学歴がほしかったから | 5.7 | 3.2 | 3.2 | 6.4 | 9.9 | 6.2 | 6.4 | 16.5 |

注：回答は複数回答可

他方、「専門的な内容を学びたかったから」は約6割と高い割合を示している。

上記をふまえるならば、専門学校進学者の進学要求は、手段的側面・目的的側面両面において、その後の職種や業界との関係で具体化されていることがわかる。1節でみた、進路決定過程における具体的な職種・業界決定がこうした進学要求の具体化・明確化につながっていると考えることができるだろう。

**○学科・コースによる特徴**

学科・コースによって、進学要求のあり方も異なっている。ここでは、「1．専門的な内容を学びたかったから」と「2．就職・転職につながる資格や免許を取得したかったから」の二つの項目に焦点をあてて、見てみたい。

「1．専門的な内容を学びたかったから」という目的的側面を重視する傾向があるのが、「音楽・アニメ・芸術系」(84.1%)、「ペット系」(81.6%)、「エステ・ネイル・メイク系」(74.5%)、「栄養・調理・製菓系」(73.9%) だ。これらの学科・コース群は、1節でみたように、他教育機関と競合しない学科・コース群であり、専門学校進学一択・早期検討者が多いところでもある。

他方、「2．就職・転職につながる資格や免許を取得したかったから」という手段的側面の形式面を重視する傾向にあるのが、「ビジネス・経営・事務・秘書系」(73.1%)、「医療・リハビリ系（看護系除く)」(72.8%)、「自動車・航空・整備系」(72.5%) である。これらの学科・コース群はとくに、就職や資格を打ち出す傾向が強い学科群であり、それらが進学要求に反映されていると考えられる。

なお、表2－6 の項目1と2の差が最も目立つ学科は「音楽・アニメ・芸術系」である（1：84.1%、2：30.0%)。これらの学科・コースの進学者は「資格や就職」という要素よりも、「学びたいこと」を重視で進学していると考えられる。また、同じく「音楽・アニメ・芸術系」が「3．自分の適性や将来の方向性を見つけたいから」が51.3%と平均よりも2割程度高い数字を示していることもふまえるならば、ある程度、卒業後の就職等の難しさを認識しながら、業界における自分の適性・方向性等を見極めていくことも視野に入れて、学びたいことを学ぶために進学していると見て取ることもできるだろう。

他方、対照的に「ビジネス・経営・事務・秘書系」は項目1に対して47.1%、項目2に対して73.1%となっており、専門的な内容よりも、資格・就職を強く意識して進学する学科・コース群もある。

こうした学科・コースにおける進学要求の違いも、それらの学科・コースが対応する職種や業界によって大きく規定されていると考えられよう。

## 3 まとめ

全体としては、職種決定と絡めて専門学校進学が決定されている。そして、その決定においては、職業イメージや学習イメージがある程度明確化されており、それにより、進学要求も具体化・明確化されているというのが、専門学校進学者の全体的な特徴といえるだろう。

他方、学科・コースごとに、決定過程や進学要求に差があることもデータからは読み取ることができる。他教育機関との関係や、キャリアルートの確立度合いなどが、それらと深く関係していると考えられる。これらについては、質的調査も含めたより丁寧な分析が求められよう。